

## ◎プロフィール

名前：光成 沙也加 (MITSUNARI Sayaka)  
隊次：2021年度4次隊 (2022/4~2024/4)  
職種：看護師  
派遣国：マダガスカル  
任地：アンチラベ (首都から南に車で4時間)



## ◎病院の家族計画部屋に布ナプキンを設置！

以前から性教育に前向きだった助産師さんが働く**病院の家族計画部屋**に、**布ナプキン**を設置してもらいました。布ナプキンを作っている保健ボランティア(AC)さんと一緒に訪問して普及活動の協力をお願いし、ここに来たお母さんたちに宣伝してもらえることになりました。

約3か月前、基礎保健センター(CSB II)に布ナプキンを設置してもらい、在庫を管理する仕組みをつくりました。その後、ACさんが定期的にスタッフに声をかけて在庫を確認し、現在は上手く連携しながら販売しています。そのため、今回はACさん主体で設置依頼から在庫管理を任せてみました。数週間後には、ACさんと助産師さんが連携を取りながら在庫管理ができており、思った以上に助産師さんが積極的に宣伝してくれていることに驚いています。私の帰国後も継続してくれることを期待しています。



助産師さんがお母さんたちに布ナプキンを宣伝中



## ◎看護学校を見学

マダガスカルの友人が働く看護学校の見学に行かせてもらいました。任地には8つの看護学校があり、学校によって設備や学費が違うそうです。この学校には3学年約180人の学生が通っています。マダガスカル全土から学生が集まってくる有名な学校だそうで、遠方から入学した学生のための寮が学校内にありました。**アメリカの支援**によって実習設備が整っており、日本の看護学校や病院で実際に使用している人形の模型もありました。日本との違いに驚いたのは、マダガスカルでは**看護師や助産師が傷の縫合をできる**ということです。日本では医師でないと縫合はできません。肌に見立てた縫合の練習キットを使って練習をするそうです。残念なことに、3年間真面目に勉強し、看護師・助産師試験に合格したとしてもほとんどの学生は就職先がなく、就職できるのは数名の学生だけです。それでも学生たちは**“病気の人を助けたい”**という目標を持って学んでいました。



助産師の演習用モデル



縫合の練習キット



授業を受けている学生たち

## ◎性教育&避妊カーの見学

任地で性教育や家族計画を実施しているボランティアさんと出会うことができ、性教育と避妊カーの様子を見学させてもらいました。

性教育は小学校高学年～中学生を対象に行われ、“**体と衣服の清潔**”“**喫煙や薬物の影響**”“**避妊**”について主に話をしていました。初めは生徒たちは恥ずかしがっていましたが、ボランティアさんの話術でいつの間にか授業に引き込まれていました。

**避妊カー**は避妊のホルモン注射やインプラント挿入が**無料**ででき、保健センターまで遠い地域のお母さんたちやお金のないお母さんたちが受診しやすいよう各地域を巡回しているそうです。実施している様子を見学できませんでしたが、車の中には面談室と施術室がそれぞれ個室になっていてプライバシーが守られており、誰でも訪れやすい雰囲気でした。

マダガスカルではキリスト教という宗教上、性教育をタブー視する傾向があるようで、**若年妊娠**が多いことが課題です。残りの任期で実施する性教育を通して、**命の大切さ**や**子どもを育てる責任**について考えるきっかけになればいいなと思っています。



生徒に性教育中



巡回型の避妊カー



仕切られている面談室



寄贈された消防車

## ◎消防車供与式に参列

任地に日本の消防車が寄贈されました！寄贈されたのは日本では活躍を終えた中古の消防車ですが、マダガスカルで今にも壊れそうな車に慣れているせいか、新品のようにきれいに見えました。マダガスカルでは日本車が人気で、TOYOTAやHONDA、MATSUDA、バイクだとYAMAHAが街でよく走っています。「**日本車は壊れにくくて50年乗れるんだ！**」と言っていた人がいましたが、マダガスカルの車事情を考えると、あながち間違っていないのかなと思いました。



放水実演

式中、マダガスカル人が日本の消防服を着て放水の実演をしました。慣れない水圧にホースが暴れる一面もありましたが、すぐに慣れてさまになっていました。現在は任地に消防署がないため、寄贈された消防車は県庁に保管されています。ラッキーな時には街中を巡回(試走?)している消防車に遭うことができます。



消防士さんとともに

## ◎番外編！おもしろマダガスカル語

遠方から任地へ戻った際に任地の人から「**お土産は？**」と聞かれることがあります。初めは“物をねだられてなんか嫌だなあ”と思っていたのですが、これはマダガスカルの**社交辞令**で「**道に実は落ちてなかった**」と返すのが正解なのそうです。ユニークだなと思ったマダガスカルの表現でした。